

ひがしね



果樹王国ひがしね案内人の会

文化財 (名称) : 東根の大ケヤキ	種別 : 特別天然記念物 員数 :
(指定) : 国指定特別天然記念物	指定 : 昭和32年9月11日 年月日 : (1957)
(所在地) : 東根市本丸南1の1の1 (東根市立東根小学校昇降口前) (所有者) : 東根市	
<p>(来歴) : 伝承では、正平年間初期 (1346~56)、小田嶋長義築城の時植栽したという。『正保城絵図』 (正保2 (1645) 年) への記載はなく、天保3 (1832) 年の町屋絵図には、「父槻 (ヂヂヅキ) 母槻 (ハシヅキ)」として記載されている。安政年間初期 (1854~57) につくられた『松前藩東根陣屋絵図』 (本丸周辺) には、25本の大樹が描かれ、そのうちの2本が父槻と母槻である。明治15 (1882) 年、父槻が枯れ、同18 (1885) 年に伐採され、旧家の門やその扉に転用された。大正15 (1926) 年10月、国の天然記念物に指定された。昭和32 (1957) 年9月、国指定特別天然記念物となる。</p>	
<p>(所見)・(特色) : 主幹は、地上5.5mの高さでふた股に分かれ、相生の形を成すも相生ではない。目通り (地上1.3m) で16.48m (平成6年9月東根百草会計測)、最大直径5.0mを計る。樹幹に空洞がなければ世界一である。</p> <p>平成元年 (1988) 年5月に発表された『日本櫟見立番付』には、“東の横綱”に位置付けられ、文字通り日本一の大ケヤキと評された。また、平成6年9月、我が国の樹木医第一号・山野忠彦は、大ケヤキをなめ廻しながら1周し、「こんな立派な巨樹を初めて見た。わが国最大の巨樹だ。もしかすると、屋久島の縄文杉より古い。8500年から8800年の樹齢はある。」と話された。</p> <p>昭和46年7月から東根小学校の解体が始まる。同50年3月現校舎完成する。そのとき、大ケヤキ周辺に盛土がなされ、最大で1.2m高くなる。そのためか、昭和60年頃から樹勢が衰え出し、同63年には落葉がはなはだしく、消防車で放水を1週間くりかえし、ようやくにして樹勢を取り戻した。</p> <p>また、平成12年にも落葉があり、龍興寺沼公園造成で沼の水を約2年間抜いたことが原因とされた。</p>	